

日本ミルトン協会 会報

Newsletter of the Milton Association of Japan

Web 版 Vol. 6 (2014)

重責に思うこと

会長 桂山康司

私がミルトンに興味を持ちはじめた 1970 年代にあってもミルトンという詩人が引き起こすイメージは決して一様ではなかった。とくに、一昔前に始まった、F. R. Leavis や T. S. Eliot を代表とするいわゆる Miltonoclasts と、Charles Williams から C. S. Lewis, Christopher Ricks 等へと受け継がれるミルトン擁護派との間の論争は、詩人としてのミルトン像を二分し、また、文人としてはともかく、人としてミルトンが嫌いだと言う人はたくさんいて、例えば、Anthony Burgess に言わせれば、ミルトンは「常に正し」く、「いやらしい」ピューリタンということになり、私の周りの先輩、先生方にもミルトン嫌いは多かった。私は英詩というものに大学入学後すぐに接する機会があり（一回生の英語のテキストの一つが英詩だった！）興味を持ち始めてミルトンの名を覚え、難しいことは何も分からずに、偉大な詩人ということなら読んでみたいなどと思っていたが、機会は遠からず訪れて、2 回生の時に Wordsworth の *The Prelude* を講読いただいた故蜂谷昭雄先生から、3 回生になると *Paradise Regained* を教わった。1 年間ですべて読み終えた。*The Prelude* よりも一段上のもので読んだという漠然とした印象で、しかし、その「いやらしさ」は一向伝わらず、むしろ敬意の念を抱いた。卒論は Wordsworth であったが、その時の敬意の念が、修論でミルトンを取り上げることにつながったと思う。そう言えば、私の周りには Wordsworth 嫌いも多く、私は絶えずその人たちへの弁明を考えていたが、ミルトンについてもそうだった。まわりの、嫌いだと言う人たちをどう説得するか、それを考えることが自分なりの詩（人）に対する理解を深めてくれたように思う。一方、それだけに、ミルトン・センター（当時）に入会し、そこで他大学の、ミルトン大好きという先生方が歓迎をしてくれた時（故大日向幻先生の優しい眼差しは忘れられない）、本当にうれしかった。実の姉のような飯沼万里子先生、偉大な先達、当時センター代表の故越智文雄先生、いつも楽しい故黒田健二郎先生、思い出すたびに、あの時の安心感が蘇ってくる。

翻って、今日、日本におけるミルトンという詩人の位置付けはどうであろうか。英文科出身者でミルトンを在学中に読まなかったという人は存外多い。ミルトン研

究者のイメージはどうか。近寄りたがたい、あるいは、変人、場合によっては、狂信者——ときに、とても偉い先生！それが、大学の一般教養の「英語」を教えているとなると、専門がミルトンであることは積極的な評価につながっているか。答えはどうも肯定的とは言い難いようである。このような状況下で、今の新しいミルトン協会に何ができるのであろうか。そう考えると、この職責を引き受けたことの重みに押しつぶされそうになるが、グローバルな英文学研究の中でのミルトン学というよりも、日本における日本人にとっての日本人のためのミルトン学の貢献について、腰を落ち着けて再考し、出来ることを着実にやっていきたいと、気を引き締めたところである。先輩の先生方、若い会員の皆さま、ぜひ、お力をお貸しください。

日本ミルトン協会 第 10 回 研究会 報告

日時 2013 年 7 月 6 日（土）午後 3 時

場所 神戸市外国語大学（大学共用施設 UNITY）

発表

- 菅野智城：「アダムとラファエルの対話に見られるミルトンの教育観」
- 堀内直美：『闘士サムソン』における赦しの二重構造

（出席者 16 名）

日本ミルトン協会 第 4 回大会および 2013 年度総会 報告

日時 2013 年 12 月 7 日（土）午前 11 時 15 分

場所 フェリス女学院大学緑園キャンパス

発表

- 富樫剛：政治思想としての神の導き（プロヴィデンス）——『失樂園』と『闘士サムソン』を読み直す——

シンポジウム：「ミルトンの交友関係」

- 笹川渉：「偉大な監督者」ヤングとミルトン
- 加藤光也：ミルトンとマーヴェル——パストラルの変容について——
- 小林七実：共和制の終焉——ヘンリー・スタップとミルトン——
- 川崎和基：Milton と St Stephen, Coleman Street に集う者

総会議事録

1. 活動報告

西川事務局長より 2012 年度の活動について報告があり、了承された。

2. 2012 年度会計報告および会計監査報告（川島伸博、小林七実、小山薫）

川島事務局長委員から 2012 年度会計報告が報告され、小林・小山会計監査委員より監査の結果報告の通りで間違いなしとされた。総会出席の会員により了承された。（7 ページ参照。）

3. 2013 年度予算（川島伸博）

川島事務局長委員から 2012 年度予算が提案され、総会出席の会員により了承された。（7 ページ参照。）

4. 規約改訂について

規約「付則 役員の選出」に関して以下の改定案が提出され、承認された。

*改定案（下線部分が改訂箇所）

(3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。

(4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。

5. 役員改選について

次期会長として桂山康司氏が承認され、桂山氏により任命を受けた以下の役員（敬称略）もあわせて承認された。

事務局長：川島 事務局（会計）：金崎 事務局（編集）：笹川
企画委員：圓月、川崎、小山、富樫、中山、西川
HP 委員：笹川、小林 会計監査：菅野、箭川

6. 名簿作成について

会員にとっての利便性と、個人情報の保護との双方の点を考慮し、氏名と所属を載せた名簿を作成すること、また住所・電話番号・email アドレスについては事前に各会員の許諾を得た上での掲載とすることが承認された。

7. 2014 年度行事予定について

下記の通り提案され、了承された。

第 11 回研究会：7 月 5 日 神戸市外国語大学（大学共用施設 UNITY）

第 4 回大会および 総会：12 月 6 日 フェリス女学院大学緑園キャンパス
(出席者 19 名)

日本におけるミルトン研究文献目録（2013 年度）

笹川 渉 “Milton as a Royalist: ‘On the Morning of Christ’s Nativity’ and Contemporary Christmas Poems” プロジェクトペーパー（国際経営研究所）No. 26 『イギリス中世からルネサンスおよび宗教改革期にかけての言語および文化の変遷』 神奈川大学国際経営研究所、2013 年 pp. 33-58.

事務局だより

2013 年 4 月 13 日

MAJ『会報』5 号および 2013 年度行事予定を会員に送付。

7 月 6 日

第 13 回研究会、運営委員会（出席者 7 名）

運営委員会議事録は次の通り。

1. 2012 年度決算および 2013 年度予算について

別表の通り。2012 年度決算について報告され、また 2013 年度予算案が審議された（それぞれ上記の通り、総会にて承認）。IMS10 からの還付金 500,000 円は基金にまわすこと、2014 年度予算に「名簿準備費」の項を立てること（下の 3 参照）が承認された。

2. 次期会長の推薦

運営委員会は次期会長候補として桂山康司氏を総会に推薦することを全会一致で決定。後日桂山氏より推薦の受諾を得、上記の通り総会にて氏が次期会長として承認された。

同時に現在の会員構成を考慮し、会長を除く役員の任期等を弾力化する方向で規約の付則「役員選出」を一部変更することを総会時に提案することにした。

3. 名簿の作成

上記総会にて承認された名簿作成方針案が承認された。スケジュール案等は以下の通り。

- (1) 14 年 4 月会報送付時に許諾票・回答票を同封
- (2) 14 年度内に名簿を作成
- (3) 提供は会費を払った会員のみ

4. 終身会員制について

現在の本会の財政状況を考慮し、全会員について会費を下げることを考えることにした。

5. IMS との関係について

IMS11 の開催までは佐野弘子氏・圓月勝博氏が IMS の committee に入ることが報告される。

12 月 7 日

第 4 回大会。第 14 回運営委員会（出席者 10 名、会計監査 2 名）。

運営委員会議事録は以下の通り

1. 2012 年度決算会計監査報告

会計監査委員により問題なしと確認された。

2. 規約（「役員改選にかかわる規定」）の改正について

上記総会にて承認された改定案が提案され、了承される。

3. 次期役員について

前回委員会で委員会による会長推薦候補とされた桂山氏により、上記総会にて承認された案が示され、了承された。

今回の委員会の理解として、事務局委員と HP 委員の兼任可とすることが確認された。また、会員数減に伴う今後の体制、およびその体制づくりに関わる規約の変更を今後議論していくことになった。

4. 2014 年度活動予定

上記総会にて承認された活動案を作成した。シンポジウムは西川健誠氏にオーガナイザーを依頼。後日テーマを「ミルトンと表象」とし、森道子氏、倉恒澄子氏、那須敬氏（国際基督教大学）をパネリストとすることが決定される。

5. 『会報』第 5 号巻頭言執筆者について

桂山康司氏にお願いすることに決定された。

訃報

本協会会員の福田民男先生が 2013 年 2 月 3 日に逝去されました。福田先生は本協会の前身である日本ミルトン・センター（MCJ）発足時よりの会員で、1975 年から 78 年は選出委員として、79 年から 82 年までは中国地区委員をお務めいただきました。生前のご功績を偲び、本会へのご尽力に深謝して、心より哀悼の意を表します。

本協会顧問で滋賀大学名誉教授の永岡薫先生が 2013 年 4 月 18 日に逝去されました。『民主主義への細い道——イギリスと日本——』（日本基督教団出版、1984 年）、『イギリス革命におけるミルトンとバニヤン』（共著、お茶の水書房、1991 年）の著者である永岡先生は、本協会の前身である日本ミルトン・センター発足時よりの会員で、1982 年からは顧問を務められ、2008 年が MCJ より本協会に移行後も引き続き顧問を務められました。生前のご功績を偲び、本会へのご尽力に深謝して、心より哀悼の意を表します。

- 7. 会計** (1) 会費
 会員の会費は年額 5,000 円とする。ただし、学生会員の会費は 1,000 円とする。
- (2) 会計監査
 会計監査は、原則として年 1 回、会計監査委員が行い、運営委員会および総会に報告する。
- 8. 規約の改正** 本規約の改正は、総会における出席者の過半数の賛成によって実施する。

付則 役員を選出

- (1) 会長は、運営委員会の推薦に従って、総会において選出する。任期は 3 年とし、再任を認めない。
- (2) 会長は、運営委員会に諮った上で、役員を任命する。
- (3) 事務局長は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。事務局委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (4) 企画委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、原則として最長 2 期とする。
- (5) ホームページ委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を妨げない。
- (6) 会計監査委員は、会長が会員の中から任命し、総会において承認する。任期は 1 期 3 年とし、再任を認めない。

9. この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

2008 年 4 月 1 日
 2012 年 4 月 1 日改正
 2014 年 4 月 1 日改正

日本ミルトン協会 役員および委員

(2014 年 4 月 1 日現在)

顧問	新井 明	日本女子大学・敬和学園大学 名誉教授
会長	桂山康司	京都大学
事務局長	川島伸博	龍谷大学
事務局委員	金崎八重 笹川 渉	大阪府立大学工業高等専門学校 北見工業大学
企画委員	圓月勝博 川崎和基 小山 薫 富樫 剛 中山 理 西川健誠	同志社大学 日本大学 同志社女子大学 フェリス女学院大学 麗澤大学 神戸市外国語大学
ホームページ委員	小林七実 笹川 渉	(同志社大学) 北見工業大学
会計監査委員	菅野智城 箭川 修	(法政大学) 東北学院大学

* () は非常勤講師

日本ミルトン協会 会報
Newsletter of the Milton Association of Japan
Web 版 第 6 号

2014 年 4 月 1 日発行

編集者兼発行者 日本ミルトン協会
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学法学部
川島 伸博研究室
振替番号00990-5-306177